

大田区日常生活圏域レベル 地域ケア会議実施報告書

令和6年度 事例紹介

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	池上																																
会議テーマ (地域課題)	「コロナウイルスで希薄となった見守り活動について」 ～通いの場に参加されない方に対する(特に男性)アプローチ方法の検討～																																
テーマ (地域課題) 選定理由	令和4年度第2回の日常生活圏域レベル地域ケア会議の池上地区の地域課題について意見交換を行った際、コロナ禍見守り活動が希薄となっている・通いの場へ参加されない方に対するアプローチ方法(特に男性の参加率が低い)の2つについて意見が多かったため、特に孤立されている方への見守りや地域にどのようにご参加頂けるか具体的なアプローチ方法の検討を引き続きテーマとした。																																
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(☐ 運動 ☐ 栄養 ☒ 社会参加) ☒ 通いの場 ☐ 多世代交流 ☐ 防災・防犯 ☐ 認知症 ☒ 見守り ☒ 孤立防止 ☐ 支援困難 民間事業者との連携(☐ 医療 ☒ 介護 ☐ 一般) ☐ その他 ()																																
開催日時	令和6年9月30日(月) 14時30分 ～ 16時00分 (1時間30分)																																
開催場所	池上特別出張所 3階会議室																																
出席者	大田区池上地区自治会連合会会長、徳持北町会会長、池上地区民生委員児童委員会長、地域自主グループ代表、シニアクラブ代表、特定非営利活動法人理事、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、区職員																																
出席者区分 ・人数	<table border="1"> <tr> <td>自治会・町会</td><td>2 人</td> <td>民生委員</td><td>1 人</td> <td>シニアクラブ</td><td>1 人</td> </tr> <tr> <td>その他地域活動団体</td><td>2 人</td> <td>介護事業所</td><td>2 人</td> <td>医療機関・薬局</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>その他民間事業所</td><td>人</td> <td>社会福祉協議会</td><td>3 人</td> <td>その他</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>特別出張所</td><td>1 人</td> <td>地域福祉課</td><td>1 人</td> <td>その他区職員</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td><td>2 人</td> <td>合計</td><td colspan="3">15人</td> </tr> </table>			自治会・町会	2 人	民生委員	1 人	シニアクラブ	1 人	その他地域活動団体	2 人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	3 人	その他	人	特別出張所	1 人	地域福祉課	1 人	その他区職員	人	地域包括支援センター	2 人	合計	15人		
自治会・町会	2 人	民生委員	1 人	シニアクラブ	1 人																												
その他地域活動団体	2 人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人																												
その他民間事業所	人	社会福祉協議会	3 人	その他	人																												
特別出張所	1 人	地域福祉課	1 人	その他区職員	人																												
地域包括支援センター	2 人	合計	15人																														
検討内容	課題解決に向けた意見	【通いの場へ参加されない方に対するアプローチ方法】 ・参加者のメールアドレスを聞いて、忘れないように定期的にメールでお誘いする。 ・参加者の希望が第一なので、興味のあるもの等を会話して引き出して企画していく。 ・とにかく、PRが非常に大事。チラシが出来上がり次第、区設・町会掲示板に掲出する。 既存のグループにも必ず周知していく。 ・場所も企画に合わせて検討する必要がある。駅前だと遠いと感じる人もいるため、池上特別出張所も検討の余地がある。 ・企画講師については男性の魅力UPに繋がる内容でも他地域にて開催していた。 (姿勢・オシャレ・歩き方等…プロによる指導)																															
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・シニアクラブとの連携を強化し、PRの拡大、コラボ企画などシニアクラブ会長と共に考案していく。 ・ダンディ会へ参加された方でメールアドレスをお持ちの方がいればお聞きし、今後のお誘い連絡を差し上げる。 ・適宜、男性が興味を持ちそうな講師情報の収集を行う。																															
区へのべ 提案会議	区全体に共通 する考えられる 課題	男性が気軽に地域へ参加し、役割を持ちながら活躍できる場所 見守りの輪を拡大するリーダー的な存在の発掘																															
	事業や取組 の提案	通い続けられる場に求められる雰囲気作りや、立ち上げに関する増詣が深い講師の派遣や 後方支援																															

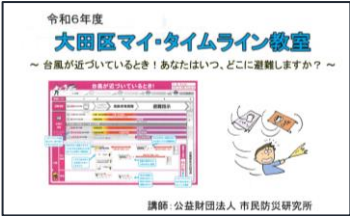
大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名		雪谷				
会議テーマ (地域課題)		セルフネグレクト状態にある人への支援				
	テーマ (地域課題) 選定理由	近年、セルフネグレクト状態にある高齢者等について、近隣住民等からの相談が増加している。自宅のゴミ屋敷化や精神疾患等、様々な課題を抱えている中で、医療・介護・行政の職員がセルフネグレクトを正しく理解し、多職種による支援の在り方を検討する。 (令和6年度中に個別レベル地域ケア会議において検討した事例あり)				
	地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(☐ 運動 ☐ 栄養 ☐ 社会参加) ☐ 通いの場 ☐ 多世代交流 ☐ 防災・防犯 ☒ 認知症 ☒ 見守り ☒ 孤立防止 ☒ 支援困難 民間事業者との連携(☒ 医療 ☒ 介護 ☒ 一般) ☐ その他 ()				
開催日時		令和6年11月22日(金) 19時30分 ～ 21時00分 (1時間30分)				
開催場所		田園調布医師会館				
出席者		医師、看護師、薬剤師、ケアマネージャー、ホームヘルパー、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、区職員				
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員	人	シニアクラブ	人
	その他地域活動団体	人	介護事業所	21 人	医療機関・薬局	21 人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	2 人	その他	人
	特別出張所	人	地域福祉課	7 人	その他区職員	人
	地域包括支援センター	3 人	合計	54人		
検討内容	課題解決に向けた意見	○プログラム ・事例発表・・・地域包括支援センター上池台 ・講話「セルフネグレクトとは」・・・調布地域福祉課こころの健康相談担当 ・グループワーク・・・参加者全員 ○グループワークで参加者から出された主な意見 (これまで関わったセルフネグレクト状態にある人の課題・傾向) ・自ら支援を求められない。支援者が課題と考えることを、困りごととして捉えていない。 ・介護サービス利用の拒否、病識が希薄、現状を改善する意欲が低い。 ・自分の考え、こだわりが強い。他人と関わるのが難しい。他人の目は気にしない。 ・ひきこもり傾向、多量飲酒、精神疾患がある。認知機能、身体機能低下がみられる。 ・無気力感にとらわれ、警戒心が強く、被害的、攻撃的になりやすい。 ・家族と疎遠、地域から孤立している。				
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	セルフネグレクト状態にある方への支援について、多職種連携において大切だと思うこと ・支援者間の情報共有、信頼関係の構築、役割分担、多機関連携の調整役。 ・支援の方向性を関係者間で明確化し、共通目標の下に対応する。 ・短期間での改善を求めず、少しずつ関わりを増やす。 ・地域との連携を強めることで、早期発見や当事者の見守りにもつながる。 ・現在の状況に至ったきっかけや原因を知る。 ・本人ができない、やらない理由を考える。				
区へのべ 提ル案 議	区全体に共通 すると考えられる 課題	・ゴミ屋敷やペットの飼育放棄による、本人、近隣住民に対する衛生面での影響。 ・精神疾患(アルコール依存症、認知症等)の影響による生活面の変化に対する早期対応。 ・地域から孤立している人でも気軽に行くことができる居場所づくり。				
	事業や取組 の提案	・地域との連携・・・地域の理解、地域からの相談、地域の見守り力の向上(商店等)。 ・早期発見や対応につながる仕組み・・・一般企業でのおいじたくや、退職後の生活に関する啓発、情報提供。				

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名		蒲田東					
会議テーマ (地域課題)		蒲田本町二丁目の地域の現状や課題の再確認					
	テーマ (地域課題) 選定理由	お住まいの地域によって、ニーズや課題は異なる。蒲田本町二丁目地域の現状や課題を把握した上で、地域包括支援センターや関係機関とのネットワークを構築していくとともに、課題対応をともに考えるきっかけ作りの場とする。					
	地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(☐ 運動 ☐ 栄養 ☒ 社会参加) ☒ 通いの場 ☒ 多世代交流 ☐ 防災・防犯 ☒ 認知症 ☒ 見守り ☒ 孤立防止 ☐ 支援困難 民間事業者との連携(☐ 医療 ☒ 介護 ☒ 一般) ☐ その他 ()					
開催日時		令和6年6月21日(金) 13時00分 ～ 14時30分 (1時間30分)					
開催場所		蒲田本町二丁目町会会館					
出席者	蒲田本町二丁目町会関係者(会長兼シニアクラブ会長、副会長、総務部長、婦人部、民生委員など)、ケアステーションらっこ(居宅介護支援事業所)、でいほーむ蒲田(デイサービス)、蒲田東特別出張所、地域包括支援センター蒲田、地域包括支援センター蒲田東						
	出席者区分 ・人数	自治会・町会	5 人	民生委員	2 人	シニアクラブ	人
		その他地域活動団体	人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人
		その他民間事業所	人	社会福祉協議会	人	その他	人
		特別出張所	1 人	地域福祉課	人	その他区職員	人
		地域包括支援センター	4 人	合計		14人	
検討内容	課題解決に向けた意見						
	1地域特性の紹介、2地域包括支援センターの役割、3グループワーク (2つのグループに分かれて話し合い) グループワークでは、「認知症状や一人暮らしの方で心配に思ったことはありますか」、「地域でこんなサポートや活動があれば良いと思うことを教えてください」という二つの議題で話し合いを行う。 ○集まりの場への参加促進 ・喜楽会(シニアクラブ)や、にこにこ体操などへ参加してほしい ・祭りなどのイベントに参加してほしい ○周知方法の充実 ・地域包括支援センターや見守りキーホルダーを知ってもらう ・一人世帯の人に、紙ベースで町会や行政の活動のお知らせを何度も行う。 ・回覧板の活用 ・お祭りや少年部のイベントPR。地域の事業所等との連携 ・マンション等新しい人たちへの声掛け ○解消すべき課題や今後の取組案 ・町会の役員の成り手がいない ・コンビニに困ったことがないか情報をもらってはどうか ・何かを届けるシステム(ヤクルト、お弁当など) ○地域に出ない(繋がっていない)高齢者 ・町会と繋がっている介護事業所や地域のケアマネージャーとの連携 ・町会と民生委員が行っている報告会にケアマネージャーや包括も参加してもらい意見交換等々						
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)						
議区へのべ 提ル 案会	区全体に共通 すると考えられる 課題	自治会・町会の会員数の減少や担い手不足					
	事業や取組 の提案	自治会町会活動の広報及び入会や会員登録の仕方などの発信(X等のSNSの活用、ホームページや区報を使って、定期的に発信を行う。					

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	羽田																																
会議テーマ (地域課題)	羽田地区におけるひとり暮らし高齢者等の防災(風水害)支援について考える。																																
テーマ (地域課題) 選定理由	羽田地区において ・台風などの風水害が発生した場合における、ひとり暮らし高齢者等の避難を地域で検討。 ・大田区避難行動要支援者名簿の登録促進や活用について検討。 ・年齢層に応じた効果的な防災情報取得について考える。 ・民生委員児童委員、特別出張所と地域包括支援センターで連携して地域の防災意識向上を図る。 ・公益財団法人市民防災研究所から講師を招きマイタイムラインについて講義・説明してもらい、その後、意見交換会を実施。																																
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(☐ 運動 ☐ 栄養 ☐ 社会参加) ☐ 通いの場 ☐ 多世代交流 ☒ 防災・防犯 ☐ 認知症 ☐ 見守り ☐ 孤立防止 ☐ 支援困難 民間事業者との連携(☐ 医療 ☐ 介護 ☐ 一般) ☐ その他 ()																																
開催日時	令和6年8月8日(木) 14時00分 ～ 15時30分 (1時間30分)																																
開催場所	羽田地域力推進センター 4階会議室																																
出席者	羽田地区民生委員児童委員、公益財団法人市民防災研究所、羽田特別出張所、地域包括支援センター羽田																																
出席者区分 ・人数	<table border="1"> <tr> <td>自治会・町会</td><td>人</td> <td>民生委員</td><td>19 人</td> <td>シニアクラブ</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>その他地域活動団体</td><td>人</td> <td>介護事業所</td><td>人</td> <td>医療機関・薬局</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>その他民間事業所</td><td>人</td> <td>社会福祉協議会</td><td>人</td> <td>その他</td><td>2 人</td> </tr> <tr> <td>特別出張所</td><td>1 人</td> <td>地域福祉課</td><td>人</td> <td>その他区職員</td><td>人</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td><td>1 人</td> <td>合計</td><td>23人</td> <td></td><td></td> </tr> </table>			自治会・町会	人	民生委員	19 人	シニアクラブ	人	その他地域活動団体	人	介護事業所	人	医療機関・薬局	人	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	人	その他	2 人	特別出張所	1 人	地域福祉課	人	その他区職員	人	地域包括支援センター	1 人	合計	23人		
自治会・町会	人	民生委員	19 人	シニアクラブ	人																												
その他地域活動団体	人	介護事業所	人	医療機関・薬局	人																												
その他民間事業所	人	社会福祉協議会	人	その他	2 人																												
特別出張所	1 人	地域福祉課	人	その他区職員	人																												
地域包括支援センター	1 人	合計	23人																														
検討内容	【講義内容】 市民防災研究所講師から、マイタイムラインに関わる ・防災気象情報ツール ・大田区防災アプリ ・大田区ハザードマップ などについて講義、説明。    【意見交換会】 ・大田区防災ハザードマップを日頃から確認しておく必要があると感じた。 ・避難の判断に役立つ防災気象情報ツールとして、大田区防災アプリの説明を受けたが、高齢者はスマートフォンの操作に慣れておらず、情報を取得することが難しい。講師から説明のあった、地上波デジタルテレビのデータ放送から防災気象情報や避難情報などを取得する方法が分かりやすいと思う。担当地区のひとり暮らし高齢者等に伝えていきたい。 ・大田区の場合、風水害の際に避難場所が小中学校となっている。高齢者や障がい者が安心して避難するための要配慮者スペースや支援者名簿の整理などの区の対策を知る必要があると感じた。																																
決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	【民生委員】 担当地区のひとり暮らし高齢者等へ大田区防災アプリのチラシを配布する。加えて訪問した際に、地上波デジタルテレビのデータ放送の活用による防災気象情報や避難情報の取得について案内していく。 【地域包括支援センター】 シニアステーション羽田に大田区ハザードマップを配布し、周知してもらう。																																
議区へのべ 提ル案会	区全体に共通 すると思われる 課題	大田区防災アプリや大田区ハザードマップなど、ひとり暮らし高齢者等が避難の際に役立つ情報の周知や理解促進																															
	事業や取組 の提案	年齢層に応じた取得しやすい情報ツールの提案及び高齢者の情報リテラシーの向上																															